

第1期

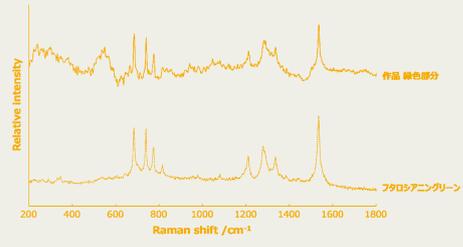
2025.9.13 SAT. - 25 THU.

第2期

2025.10.4 SAT. - 19 SUN.

再考

少女と白鳥



1996年 高知県立美術館が、油彩画《少女と白鳥》をドイツ人画家ハインリヒ・カンペンドンクによる1919年の作として購入
 2024年6月 当該作品に贋作の疑いがあることが発覚（翌月に公表）
 同年7月 作品購入先に対する購入ルート等の聞き取り
 同年8月 ドイツ・ベルリン州警察より美術館に贋作者についての情報提供

同年11月 美術館が京都大学准教授 田口かおり氏の調査チームに依頼し、作品の基礎調査および科学分析調査を開始
 2025年2月 分析成果について、県および美術館に経過が報告される

同年3月 田口氏からの報告書および証拠資料全体に基づく検討の結果、県および美術館は《少女と白鳥》を贋作と判断し、発表

贋作を持つ美術館で 贋作について考える

会場：2階展示室A

観覧料：一般400(320)円

大学生280(220)円

高校生以下無料

*本展の観覧券で、開催中の主催展覧会（石元泰博・コレクション展）もご覧いただけます *第79回高知県美術館展覧会（主催：高知新聞社、RKC高知放送会期：10月4日～19日）は、本展とは別料金です *観覧料はすべて消費税込価格 *（ ）内は20名以上の団体料金 *年間観覧券（持参の方は無料） *身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者（1名）、高知県及び高知市長寿手帳所持者は無料

※展示内容は1期と2期とも同じです。
 ※9月26日～10月3日まで、美術館の主催展覧会（本展と石元泰博・コレクション展）はご覧いただけません。
 開館時間：9時～17時（最終入場は16時30分まで）
 ○10月4日（土）は夜間開館デー。本展と石元泰博・コレクション展を19時まで開場いたします。



作品の分析調査風景（部分）
 提供：株式会社堀場テクノサービス ©HORIBA

作品の分析調査風景（部分）
 提供：株式会社堀場テクノサービス ©HORIBA

高知県立美術館

主催：高知県立美術館（公益財団法人高知県文化財団）
 監修：田口かおり（京都大学） 助成：公益財団法人花王芸術・科学財団
 協力：森絵画保存修復工房、株式会社堀場テクノサービス、阿部善也（東京電機大学）、村串まどか（明治大学）

特別展示・
調査報告

再考 《少女と白鳥》 贋作を持つ美術館で 贋作について考える

2024年、高知県立美術館がドイツ人画家ハインリヒ・カンペンドンクの油彩画として所蔵する《少女と白鳥》に贋作疑惑が浮上しました。当館は、京大准教授・田口かおり氏と協力して本作の科学分析調査を行い、来歴や証拠資料なども含めて総合的に検討した結果、この作品が贋作であるとの結論に至りました。

本展では、《少女と白鳥》を公開し、購入・収蔵の経緯や実施した科学分析の内容もあわせて紹介することで、様々な角度から本作について「再考」します。科学的な手法で美術品の技法材料を明らかにすることは、真贋鑑定に資するだけでなく、従来の鑑賞とは異なる視点から作品と向き合うことにもつながるはずです。

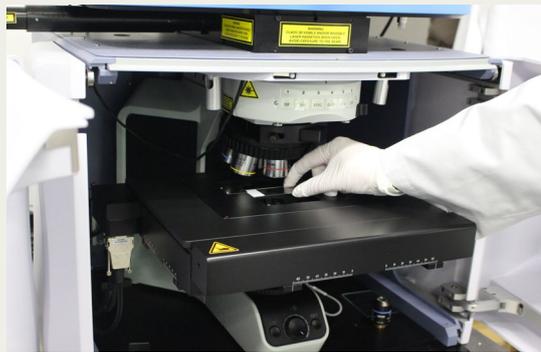
昨今も相次ぐ贋作発覚のニュースは、世界各地の学芸員や美術史家、画商、コレクター、鑑定機関を悩ませ続けています。当然ながら、恣意的な贋作の制作と流通は犯罪であり、作品の所蔵者だけでなく、作者とされていたアーティストの名誉をも深く傷つけます。しかし、専門家の眼をかくくぐつて歴史の表舞台に登場してしまった贋作の物語は、人々の関心を引いてやみません。さらに、1996年に購入してから事件が発覚するまでの28年間、皮肉にも《少女と白鳥》が人々に「カンペンドンクの作品」として親しまれてきたことも事実です。

芸術の価値とは果たしてどのようなものなのか、作品を「真作」に足しめる要素をいかに定義しようのか、そして美術館は真贋をめぐる問題にいかに対峙すべきなのか……。贋作を収蔵してしまった美術館として、今後同じ過ちを繰り返さないためにも、本展を通して芸術分野における「贋作／偽物と真作／本物」をめぐる諸問題に光をあて、議論の場を生み出すことを目指します。

高知県民の皆さまはもちろん、事件の報道をきっかけに《少女と白鳥》を知った多くの方々にも、この機会にご来場いただければ幸いです。



高知県立美術館での作品調査風景



作品の分析調査風景 提供：株式会社現場テクサービス ©HORIBA



高知県立美術館での作品調査風景 協力：東京電機大学、明治大学

関連イベント

1 サタデーレクチャー 「《少女と白鳥》を視る」

本展監修者の田口かおり氏にお話いただけます。

日時 9月13日(土) 13:00~14:00

会場 1階 講義室

登壇者 田口かおり(修復家・京大准教授)

参加費 無料

定員 50名

〈申込方法〉8月10日(日) 10:00よりお電話およびGoogleフォームにて受付開始。定員に達次第、受付を終了します。お申し込みは一度につき1名様のみ承ります。連名でのお申し込みはご遠慮ください。(電話 088-866-8000 / 10:00~17:00)



Googleフォームからのお申し込みはこちら

2 担当学芸員による ギャラリートーク

日時 9月23日(火・祝)、10月4日(土) いずれも13:30~

会場 2階 本展会場(展示室A)

参加費 無料(要観覧券・事前申込不要)

3 シンポジウム 「美術館と贋作問題」

共催：京大大学院人間・環境学研究所附属学術越境センター

美術館における贋作の扱いやそれにまつわる法的・倫理的な問題、展示や調査のあり方などを多角的に検討するシンポジウムを開催します。

日時 10月19日(日) 13:00~16:15

会場 1階 展示室D

登壇者 安田篤生(当館館長)、田口かおり(修復家・京大准教授)、山梨俊夫(元・国立国際美術館館長、一般社団法人全国美術館会議事務局長)、照井勝(弁護士、弁護士知財ネット理事)

参加費 無料

定員 100名

〈申込方法〉9月10日(水) 10:00よりお電話およびGoogleフォームにて受付開始。定員に達次第、受付を終了します。お申し込みは一度につき1名様のみ承ります。連名でのお申し込みはご遠慮ください。(電話 088-866-8000 / 10:00~17:00)



Googleフォームからのお申し込みはこちら

高知県立美術館

〒781-8123 高知県高知市高須353-2 TEL 088-866-8000